

はしマイスター 山田一畳店 (やまだはじめたたみてん)

～技術力とアイデアの融合「デザイン畳」で床アート／老舗 5 代目の挑戦～



◆ 申請者に関すること

申請者 (企業)	山田一畳店	業種	製造業 (畳)
従業員数	2 名	所在地	竹鼻町
勤務先の形態	自営業	沿革	明治 2 年 (1869 年) に創業

活動概要

明治 2 年に創業した山田一畳店は、竹鼻町の老舗畳店である。近年は住宅の洋式化に伴い、畳の生産は 1997 年の約 1762 万畳から 2016 年には約 555 万畳と 3 分の 1 に減少している。

5 代目の山田憲司氏は、需要減に対応するためには「バリエーションを増やすことが重要」と考え、従来の長方形から一転し、老舗の技術力を活用して多角形や曲線形を取り入れたデザイン性の高い畳を製造。HP や SNS で受注を伸ばしており、現代のインテリアにマッチした畳で再度注目を集めている。

◆ 評価項目に関すること

① - 1 技術力 多角形・曲線形のデザインに手作業で対応可能

- 従来の畳 (長方形) は、木質系ボードで作る畳床とい草を織った畳表を機械で縫い合わせて製造している。
- 機械では鋭角や曲線になった部分の畳表を裏側に織り込むことができず、全て手作業となる。(通常、4 畳半であれば 2 日間で完成するところ、デザイン性の高い畳は同面積でも作る枚数が増えるため、約 2 週間必要となる)
- 畳のフロアを大きなキャンパスに見立て、床全体を畳でデザインしている。多角形・曲線形の「形」という観点だけでなく、畳の「向き」やい草の「加工角度」を変化させ、光の加減による「濃淡」を表現することができる。
- 薄い畳 (15mm) も制作することができ、リビング等に簡易的に置くことができる。(車内も対応可)

② 資格・表彰・販売実績 県産業経済振興センター「事業可能性 A 評価」

- デザイン性のある畳 (屋号：ジャパニーズフロア) が、公益財団法人岐阜県産業経済振興センターの 2018 年度事業可能性評価で A 判定を取得。
- ※ 事業可能性評価：新規性のある製品や新技術による経営革新の取り組みを評価するもの。2018 年度はジャパニーズフロアの山田憲司氏を含め 8 社が A 評価を受けた。
- デザイン畳は、一般住宅だけでなく老舗旅館 (美濃市：岡専旅館) でも採用された。

③ 認知度 新聞・テレビ・ラジオ・雑誌等 (6 社) で報道

- 岐阜・毎日・中部経済新聞の取材を受け、活動概要に関する記事が掲載された。(直近：令和元年 9 月 11 日中部経済新聞)
- 中京テレビ「キャッチ」の取材を受け、活動概要に関する内容が放送された。(令和元年 5 月 24 日)
- アベマTV「ニシノコンサル」の取材を受け、活動概要に関する内容が放送された。(令和元年 5 月 23 日)
- 堀江貴文 FRESH チャンネルの取材を受け、活動概要に関する内容が放送された。(平成 30 年 6 月 12 日)

④ 協力体制 イベントで畳貸し出し・ふるさと納税返礼品登録に向けて調整

- 2019 年の美濃竹鼻ふじまつりで、デザイン畳を無料で貸し出して茶席を設置した。
- ふるさと納税返礼品登録に向けて市と調整中である。

その他 世界初のデザインアート畳を新たに発表

- 日本固有の畳文化を世界に発信するため、八畳間和室用に「龍」をモチーフにデザイン畳を製作した。(201 枚の畳で龍のうろこ、歯、ひげまで表現した)
- 羽島商工会議所「新商品・新サービス等合同記者発表会」で上記畳を発表した。